初めてのサッカー

金屋小・６　新田　智洋

ぼくは、人にスポーツが得意だと思われているけれど、本当はそんなに得意じゃない。例えば、ぼくが一生けん命走っても、もっと速い子はいる。クラスのみんなで走っても、「あいつ足おそいな」と思われるのがいやだし、順位がはっきりついてしまうのが、負けを感じていやだ。

今年の五月、部活が始まった。コロナかで、五年生だった昨年は、部活がなくなってしまった。だから、ぼくにとっては初めての部活で楽しみだった。バスケ部、サッカー部、陸上部があったがサッカー部にした。なぜなら放課の時間、よく友達とサッカーをするようになったからだ。上手な子もいて、すごいプレーを見せてくれて、こんなプレーをぼくもやってみたいと思った。それに一年のころ、一度体験に行ったことがあったからだ。

サッカー部の練習は、まずパスから始まる。パスは、足の内側でトンとける。受け取る側は、「足をボールの上に、ふみつけるようにして、しっかり止める」と、こもんの先生に教えてもらった。簡単そうに見えるけれど、止めずにすぐけってしまう時もあるから気を付けないといけない。ルールを覚えて仲間と相手をせめながら守りもしなければならない。頭がごっちゃになってしまって、オウンゴールをしてしまうこともあった。

次に、試合の時にどの人にパスをするかの練習と、自分たちの役割を決めた。ぼくはディフェンダーになった。サッカーはチームプレーで戦うことや、一人一人の役割が大切だと知った。

最後に、試合の練習をした。試合の三十分間、ずっと走り続けるわけではないけれど、やっぱりバテた。

試合当日、初めてユニフォームを着た。先ぱいから受けついできたこのユニフォームも、今日で役目を終える。精一ぱいがんばりたいと思った。なぜなら、今年で小学校の部活動が最後なのだ。来年はもうない。この二試合に気合を入れようと力が入った。

まず一試合目。相手がどのくらい強いのかはわからないし、三十分体力がもつのか、不安ときん張で胸がバクバクした。

ついに試合が始まった。みんなも相手も、落ち着いてパスをまわしていた。ぼくのチームには作戦があった。相手のチームの強い人を見つけて、ボールがその人に行かないように一生けん命マークすることだ。マークしている選手が、「こっち来い！外から！」と声かけをたくさんしていた。ぼくは走った。ぼくの前に相手の選手がボールをもってせまってきた。ぼくは「行かせない！」と思って体を張った。そして、ボールをうばえたから、すぐに仲間にパスをした。相手の選手はいやな顔をした。その時ぼくは、にやっとしたかもしれない。うれしかったのだ。ぼくは、役割を果たせた。こんな風にうれしいと思うことは、今までに味わったことがなかった。休けい中、先生に「よかったよ。」と言ってもらえて、さらにうれしくなった。

二試合目、雨が激しく降り始めた。とちゅうまでは点を取られずにいたが、段々と集中力が切れてきて、守れずに点を取られてしまった。ぼくの体力がもたなかった。ぼくの体は、準備不足だった。相手との力の差を感じた試合になった。残念ながら負けてしまった

けれど、楽しかったし、もっとやりたいと思った。
　この部活動に参加して、サッカーが好きになった。テレビで試合を見るようになった。サッカーは、自分の役割があって、仲間と力を合わせて戦うことが楽しいと分かった。ぼくはサッカーの楽しさを知るきっかけをもらえて良かったと思った。苦手だと思ってやらないより、少しでもちょう戦することで、成長するチャンスは、いつでもあるんだと思った。ぼくは、負けるのがきらいだったけれど、自分なりに努力して力を出すことができたことは、満足できたし、うれしかった。チームは負けてしまったけれど、仲間とは笑顔で「おつかれ」と言えた。負けも悪くない。でも次はもっと練習して、「やった！」と言えるようにがんばりたい。

３・９